

将来不安ゼロの立川へ、一歩ずつ、着実に！（4年間の歩み）

前回の選挙公報で掲げた約束について、この4年間の取り組みを振り返りました。

約束を掲げるだけでなく、その結果を自ら検証し、次に活かしていくのが、政治の責任です。

達成できたこと、できなかったことを含めた詳細な検証はこちら→



将来不安ゼロの立川へ！

持続可能なまちづくり

- ・ 気候危機対策を前進
- ・ 生ごみたい肥化事業を拡充
- ・ 脱プラスチックの推進

みんなで一緒に決める

- ・ 住民投票条例の設置
- ・ 若者議会などの若者政策の実現

物価高騰に対する緊急提言

- ① LED照明の無償提供
- ② 子ども食堂等への支援
- ③ 公共交通の拡充、利用促進
- ④ 困窮世帯への支援金

だれも見捨てない

- ・ 子どもの学習支援事業の拡充
- ・ 生活保護行政の拡充
- ・ 高齢者の孤立対策や通院支援

多様な生き方を応援


- ・ 障がい者雇用の推進
- ・ 性的マイノリティへの配慮を推進
- ・ 医療的ケア児童への支援拡充
- ・ 男性育休取得など子育て環境整備

平和と安全を築く

- ・ ウクライナを始め、難民の受入
- ・ 平和憲法を大切にする

私たちも応援します

大沢ゆたか(元立川市議会議員)
宇都宮けんじ(日本弁護士会元会長)
漢人あきこ(東京都議会議員)
島田清作(元立川市議会議員)
加藤みどり(立川在陣会副会長)
佐藤勲彦(紫芳会立川支部幹事)
吉村一正(パルシステム会員)



山本ようすけ

無所属 31歳

ここを検証

前回2022年6月
市議選 選挙公報

みんなで一緒に決める

若者会議が実現！

2018年に議員になって初めて取り上げた政策が若者政策でした。幼保、小中学生は行政(教育委員会)と繋がりがあっても高校以降の年代の若者と行政が繋がる機会がほとんどありません。若い人たちの声を取り上げる仕組みや若者のニーズをくみ取ること、若い人が住み続けたいと思えるような取り組みの必要性を訴えてきました。

2025年度から昭島市と共催で「若者会議」が実現。若者が市に対して政策提案をするというもので、初年度は「そもそも若者会議とは何か、どうあるべきか?」という枠組み作りが若者主体で行われました。その結果として、若者会議とは「若者の声を集め行政に届ける場」、「コミュニティづくりしながら地域貢献する場」、「若者が行政とつながり、一歩踏み出し挑戦する場」という提言をいただきました。また、名前も「若者会議だと堅苦しい…」ということで「KURU・CHIKA ミライ会議」という愛称に。

若者が主体となって仕組みをつくり、行政とつながる場が生まれたことは、大きな一歩だと感じています。これからの立川を担う世代の声を、これからも市政にしっかりと活かしていきます。



↑若者会議



2018年8月、議員になって間もない頃に視察した、愛知県新城市の「若者議会」

若者会議の発表会に臨席した白井昭島市長、酒井立川市長と

多様な生き方を応援

障がい者雇用の推進！

会計年度任用職員などの採用も提案し、26名から39名に拡大



同性パートナーシップ制度が開始！

3月から立川市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度が開始



外国人の日本語教室が拡充！

言葉の壁が低くなることで、地域でのコミュニケーションが円滑になり、誰もが安心して暮らせるまちづくりにつながります。外国人の子どもが日本語を学べる教室について、行政による支援が拡充されました。



平和と安全を築く

核兵器廃絶平和都市宣言！

戦後80年の節目として「核兵器廃絶平和都市宣言」、議会でも全会一致で採択。核兵器のない世界を目指し、地域から声を上げ続けることの重要性を改めて感じています。



地域から国際平和に貢献！

ウクライナからの難民は、都の施策で受入が進みました。ガザ地区の人道危機に対しては意見書を取りまとめ全会一致で可決。イラン情勢はじめ依然として平和が程遠い状況ですが、これからも地域から声を上げていきます。



持続可能なまちづくり

断熱改修への助成が実現！

2025年にゼロカーボンシティ宣言公共施設の再エネ調達も進展
市民向け断熱改修助成金もスタート
気候変動対策が少しずつ進展中

生ごみ減量施策が前進！

生ごみを回収してたい肥にする事業
今までは大山団地のみだったが、2024年から地域を拡大したモデル事業が実現
また、たい肥の素を配布するベランダたい肥事業も件数が増加



だれも見捨てない

子どもの学習支援事業が拡充！

2023年度から西砂学習館が追加されて地域的な隔たりが解消

高齢者の孤立対策が前進！

地域包括支援センターを市内全域(6圏域)に設置し、居場所や相談場所が拡充。通院や買い物が難しい方の移動手段として、くるりんバスに加え「予約型の乗り合い交通」など新たな交通手段を検討中

生活保護支援の質がアップ！

認知症などで金銭管理が困難な方が増える中、地域で住み続けられるよう、金銭管理支援業務が拡充

～多様な課題に日々取り組んでいます～



議会の仲間たちと気候変動対策の強化を求めるアクション



理事を務めるNPOさんきゅうハウス元旦のお雑煮炊き出し



会派でソーラーシェアリングを視察 農業と発電の両立を目指すシステム



厚生委員会委員長としての公務も沢山ありました